

令和5年

# 大仙市中学生議会

実施記録集



令和5年1月11日（水）

主催：大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

# 【 目 次 】

大仙市中学生議会実施要項 .....	1
大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット）次第 .....	2
令和5年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】 .....	3
大仙市中学生議会 議席指定一覧表 .....	4
一般質問通告書	
一般質問者と質問通告内容 .....	5～16
決議案第4号 .....	17～18
<b>&lt;開会式&gt;</b>	
後藤 健 大仙市議会議長あいさつ .....	19
<b>&lt;中学生議会&gt;</b>	
会議録（写真入り） .....	20～46
<b>&lt;閉会式&gt;</b>	
記念品の贈呈 .....	47
伊藤雅己 教育長あいさつ .....	47～48
中学生議員代表（南外中学校 佐々木百恵さん）お礼のことば .....	48
<b>&lt;議員との懇談会&gt;</b> .....	49～50

# 大仙市中学生議会実施要項

## 1 目 的

市議会の議場を利用し、未来を担う中学生が“議長や議員”となって、まちづくりや教育行政など、生徒に身近なテーマについて一般質問形式で質問・提案を行い、市政及び市議会への興味と理解を深めるとともに、その体験を実際の学校生活（生徒会活動等）や地域の行事などで役立てていくことにより、総合的な学力の育成の一層の推進を図ります。

中学生議員からいただいた意見などは、これからのまちづくりの参考にしていきます。

学校関係者、中学生議員の保護者も傍聴に訪れることから、市議会にも関心もたれ、今後の市議会の活性化にもつながるものと期待されます。

## 2 主 催

大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

## 3 開催日及び開催場所

令和5年1月11日（水） 大仙市役所3階「本会議場」及び「大会議室」

## 4 日 程

### <開会式>

～記録用写真撮影～

1. 開 式
2. 議長あいさつ（後藤 健 議長）
3. 中学生議長・副議長の紹介（議会事務局長）
4. 閉 式

午前10時30分

### <中学生議会>

1. 開 会（中学生議長）
2. 招集あいさつ（老松博行 市長）
3. 議席の指定（中学生議長）
4. 会議録署名議員の指名（中学生議長）
5. 会期の決定（中学生議長）
6. 一般質問 ※一般質問席に登壇 1校1質問

予定時間	1校～5校	午前10時45分～午後0時00分
	休憩（昼食）	午後 0時00分～午後1時00分
	6校～10校	午後 1時00分～午後2時15分

7. 決議案
8. 閉 会（中学生議長）

### <閉会式>

1. 開 式
2. 記念品の贈呈（伊藤雅己 教育長）
3. 中学生議員 お礼のことば
4. 閉 式

午後2時40分

### <議員との懇談会>

1. 大仙市議会の紹介
2. 質疑応答

午後2時50分

午後3時20分

# 大仙市中学生議会 次 第

## (大仙市中学生サミット)

### 【開会式】

～記録用写真撮影～

1. 開 式
2. 大仙市議会議長あいさつ
3. 中学生議長・副議長の紹介

### 【中学生議会 議事日程】

大仙市長招集あいさつ		
第1	議席の指定	
第2	会議録署名議員の指名	
第3	会期の決定（1日間）	
第4	一般質問	
第5	決議案第4号	「SDGsを意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議

### 【閉会式】

1. 記念品の贈呈
2. 教育長あいさつ
3. 中学生議員 お礼のことば
4. 閉 式

### 【議員との懇談会】

## 令和5年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】

令和5年1月11日（水）午前10時30分 開 議

大仙市長招集あいさつ		
第1	議席の指定	
第2	会議録署名議員の指名	
第3	会期の決定（1日間）	
第4	一般質問	① 西仙北中学校      金子 航 大 ・ 田 口 愛 彩
		② 大曲中学校          田 口 楓 恋 ・ 茂 木 一 歩
		③ 大曲西中学校      深 川 壮 太 ・ 伊 藤 優 虹
		④ 大曲南中学校      伊 藤 旬 里 ・ 古 谷 美 結
		⑤ 平和中学校          菅 原 麻 愛 ・ 細 谷 冬 芽
		⑥ 協和中学校          山 谷 南 紗 ・ 武 藤 秀 飛
		⑦ 南外中学校          佐々木 百 恵 ・ 今 野 鈴 音
		⑧ 仙北中学校          田 村 兼 将 ・ 藤 倉 嘉 輝
		⑨ 太田中学校          草 薙 大 翔 ・ 佐々木 佑季音
		⑩ 中仙中学校          森 川 奈 央 ・ 藤 田 悠 亜
第5	決議案第4号	「SDGsを意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議

## 大仙市中学生議会 議席指定一覧表

議席番号	中学校名	氏 名	備 考
1	大曲中学校	田 口 楓 恋	
2	〃	茂 木 一 歩	
3	大曲西中学校	深 川 壮 太	
4	〃	伊 藤 優 虹	
5	大曲南中学校	伊 藤 旬 里	
6	〃	古 谷 美 結	
7	平和中学校	菅 原 麻 愛	
8	〃	細 谷 冬 芽	
9	西仙北中学校	金 子 航 大	
10	〃	田 口 愛 彩	
11	中仙中学校	森 川 奈 央	
12	〃	藤 田 悠 亜	
13	協和中学校	山 谷 南 紗	
14	〃	武 藤 秀 飛	
15	南外中学校	佐々木 百 恵	
16	〃	今 野 鈴 音	
17	仙北中学校	田 村 兼 将	
18	〃	藤 倉 嘉 輝	
19	太田中学校	草 薨 大 翔	
20	〃	佐々木 佑季音	

令和5年  
大仙市中学生議会

# 一 般 質 問

( 令和5年1月11日 )

**【一般質問者と質問通告内容】**

No.	学校名	学年	氏名	質問通告内容	担当部
1	西仙北中学校	2年 2年	金子 航大 田口 愛彩	大仙市の経済と商工業の活性化について	経済産業部
2	大曲中学校	2年 2年	田口 楓恋 茂木 一步	MySDGsという取組の市民への波及の可能性について	企画部
3	大曲西中学校	2年 2年	深川 壮太 伊藤 優虹	「思いやり」や「喜び」を感じられる心のふれ合い交流について	健康福祉部
4	大曲南中学校	2年 2年	伊藤 旬里 古谷 美結	SDGs達成に向けた取組拡大について	教育委員会
5	平和中学校	2年 2年	菅原 麻愛 細谷 冬芽	避難所開設について	総務部
6	協和中学校	2年 2年	山谷 南紗 武藤 秀飛	SDGsの推進について	健康福祉部
7	南外中学校	2年 2年	佐々木百恵 今野 鈴音	部活動の地域移行への不安について	観光文化 スポーツ部 教育委員会
8	仙北中学校	2年 2年	田村 兼将 藤倉 嘉輝	ごみの減量化への取組について	市民部
9	太田中学校	2年 2年	草薨 大翔 佐々木佑季音	花壇を中心とした市民の交流拡大の可能性について	建設部
10	中仙中学校	2年 2年	森川 奈央 藤田 悠亜	健康促進や観光につながる「大仙市の花」コスモスの市内全域での栽培促進について	農林部



# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【経済産業部】</p> <p>○大仙市の経済と商工業の活性化について</p>	<p>西仙北中学校では、地域の菓子屋和栄堂さんに協力をいただいて、授業や職場体験学習でアイデアを出してつくった和菓子やドーナツを商品化しています。その和菓子は学校祭で販売していますが、毎回好評ですぐに完売となっています。また、ドーナツは和栄堂さんの店頭以外にも、刈和野のマックスバリュや大曲のしゅしゅえっとまるしえに「西仙北中生とのコラボ商品」として置かれています。</p> <p>生徒のアイデアが商品化されるこの取組は、生徒の自己有用感が高まることにつながっています。保護者や地域の方々に喜んで購入していただいていることに加え、うれしいことにお店の方からも、生徒の発想に刺激を受けているとの声をいただいています。</p> <p>先日、大曲中学校でも同様の商品化のニュースが報道されていました。</p> <p>このことから、大仙市の各地域でこのような生徒のアイデアを活かした商品開発の取組を行うことで大仙市全体の地域経済や商工業の活性化につなげていくことはできないかと考えています。</p> <p>市としての考えを聞かせてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立西仙北中学校

 2年 金子 航大  
 2年 田口 愛彩

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【企画部】</p> <p>○My SDGs という取組の市民への波及の可能性について</p>	<p>大仙市はSDGs未来都市に選定されています。市のホームページを見ると、一人一人ができる身近な取り組みや、市の取り組みなどが掲載されています。しかし、そのような情報を知っている人や自分たちのこととして取り組んでいる人は少ないように思います。持続可能な社会の実現に向けて、自分たちのこととしてみんなで取り組んでいくために、My SDGs カレンダーやMy SDGs アプリの作成を提案いたします。</p> <p>①カレンダーでは、月ごとに意識する目標を設定したり、日常的にできる取り組みの例やSDGsに関する市のイベント等を紹介したりするなど、広く発信できるように各家庭に配布する。</p> <p>②アプリでは、自分が意識していることや取り組んだことをチェックするとポイントが貯まり、ポイント数に応じてクーポンが発行されるような双方向の取り組みをできるようにする。</p> <p>この提案について、現状と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立大曲中学校

 2年 田口 楓恋  
 2年 茂木 一歩

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【健康福祉部】</p> <p>○「思いやり」や「喜び」を感じられる心のふれ合い交流について</p>	<p>市の健幸まちづくりへの取組では、小中学生の健康向上に向けた取り組みも行われており、大変ありがたく思う。健康な心や体は、世代を超えて大切なものであり、市全体で異世代交流や障がい者理解の場や機会を増やすことで、いつまでも心も体も元気で笑顔いっぱいの「健幸」な市民が一人でも多くなることを、私達は願っている。そこで、「思いやり」や「喜び」を感じられる心のふれ合い交流の市全体への発展性について、次の2点を提案したい。</p> <p>①小中学生が近隣の高齢者施設へ訪問し、お年寄りの方々と一緒にできるような活動やポッチャ等を通じた交流の機会をつくること。</p> <p>②車いすバスケットボールやポッチャ交流会を各地域で開催し、そのような企画に賛同してくれる小中学校を募り、協働で活動していくような場や機会をつくること。</p> <p>この提案について、市の考えを教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立大曲西中学校

2年 深川 壮太  
2年 伊藤 優虹

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【教育委員会】</p> <p>○SDG s 達成に向けた取組拡大について</p>	<p>「SDG s を達成するためにはまずは気付くことが大切です。」と市のHPに書いてあります。現在、大曲図書館や各小中学校の図書館には、SDG s 関連の本がたくさん置いてあり、多くの人がSDG s について考える環境づくりをしています。各小中学校の児童生徒や市民の皆さんが、今よりももっと自分事として考え、行動に移そうとするきっかけとなる取組として、次の2点について提案したいと思います。</p> <p>①誰でも参加可能な、または各学校や中学校区単位で実施できるSDG s ワークショップの開催。 (一般社団法人あきた地球環境会議や県内外の企業大学などとの連携で様々な形での開催が可能だと思います。)</p> <p>②各小・中学校や地元企業で取り組んでいるSDG s の取組を「だいせん日和」に紹介する。</p> <p>この提案について、現状と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立大曲南中学校

 2年 伊藤 旬里  
 2年 古谷 美結

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和元年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【総務部】</p> <p>○避難所開設について</p>	<p>5年前には神岡地区を襲った豪雨災害により、本校が避難所になりました。この際、避難された高齢者や施設職員の方から高齢者の安全な避難行動及び安心して過ごせる避難所運営について課題が挙げられました。</p> <p>そこで、「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」に係る避難所開設訓練をさらに実効性があるものに高めていくために、次の2点を提案します。</p> <p>①高齢者や障がい者等、要援護者の視点での安全な避難方法の確保及び学校と高齢者施設との合同避難訓練。</p> <p>②様々な人の特性に応じた学校施設を有効に活用した避難所運営ハンドブックの作成。</p> <p>この提案について、現状と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和元年12月12日

大仙市立平和中学校

2年 菅原 麻愛

2年 細谷 冬芽

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【健康福祉部】</p> <p>○SDGsの推進について</p>	<p>大仙市がSDGs未来都市に選定されたことを受けて、誰一人取り残されない大仙市を目指して、</p> <p>①いじめゼロに向けて協和中学校で取り組んでいる「パープルリボン運動」を市内に広げていきたいと考えています。ポスター・パンフレット・パープルリボングッズ等の制作で大仙市民の皆さんに理解していただきたいと思います。</p> <p>また、困っている人を取り残さないための手立てとして、</p> <p>②協和地域で行っている「ふれあい弁当」事業と連携して、困っている方々を支援することを目指します。高齢者に限らず、さまざまな年代の困っている人を見逃さない方法を考え、市と連携して実践していきたいと思います。</p> <p>これに対して市としての取組の状況、また今回の提案に対しての考えを伺いたいと思います。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立協和中学校

2年 山谷 南紗  
2年 武藤 秀飛

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【観光文化スポーツ部】【教育委員会】</p> <p>○部活動の地域移行への不安について</p>	<p>来年度から3年かけ、段階的に休日の部活動が地域の活動団体に移行することになります。本校生徒を対象にアンケートを実施したところ、移行に対しての不安が複数挙がりました。</p> <p>そこで、運動部・文化部両方のことについて、</p> <p>①活動環境について、所属する団体の有無や、活動場所が遠距離になったときの送迎負担などについて、保護者で対応できない場合、市はどの程度サポートしてくれるのか。</p> <p>②指導者の確保について、スポーツ少年団のように保護者が中心となるのか、あるいは、国が示すような「人材バンク」のようなものが本市でも構築されるのか。</p> <p>これらのことについて、現状と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立南外中学校

 2年 佐々木 百恵  
 2年 今野 鈴音

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【市民部】</p> <p>○ごみの減量化への取組について</p>	<p>既に市では、ごみ排出量削減に向けて、食品ロス削減のための取組や資源ごみ拠点回収の取組を行っている。さらにごみの減量化を実現させるためには市民一人一人が意識的にごみの減量に向けて行動していく必要がある。ごみの総出量の減量に向けて、資源として活用できるごみを増やす取り組みを提案したい。</p> <p>①資源ごみの回収量を増やすために、公共施設等を中心に資源回収拠点を増やすことはいかがか。</p> <p>②「プラスチック資源循環促進法」が今年度4月から施行されたこともあり、プラスチックごみの削減がごみの総出量の減量につながると考える。プラスチックごみを資源ごみとして回収して再利用することはいかがか。</p> <p>この提案について現状の課題と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立仙北中学校

 2年 田村 兼将  
 2年 藤倉 嘉輝

大仙市中学生議会 議長 様



# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
<p>【建設部】</p> <p>○花壇を中心とした市民の交流拡大の可能性について</p>	<p>大仙市太田地区では、地域住民の手によって美しい花壇が整備されており、花壇作業に小・中学生が参加したり、花を觀賞したりすることで地域の方々との交流が図られています。花壇の規模や設置されている場所によっては、人々が集まる憩いの場所となっていますが、全てがそうではありません。花壇を通じて市民が交流する場を作り出すために、</p> <p>①現在維持管理されている大仙市内の公園に市民が共同で整備する花壇を設け、花を觀賞する場を設けること。</p> <p>また、</p> <p>②既にある花壇で、花壇アートなどの取り組みを行うこと。</p> <p>③それらの公園で花壇フェアのような催しを行うことで、花壇を中心とした市民の交流拡大が図られるのではないのでしょうか。</p> <p>この提案について、現状と今後の計画を教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立太田中学校

2年 草薨 大翔

2年 佐々木 佑季音

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

令和4年12月12日

午後5時15分 受付

発言事項	発言要旨
<p>【農林部】</p> <p>○健康促進や観光につながる「大仙市の花」コスモスの市内全域での栽培促進について</p>	<p>大仙市では、年々高齢化が年々進んでいます。健康について、市全体として考えていく必要があると考えています。そこで、「大仙市の花」であるコスモスの市内全域での栽培促進と活用を提案します。</p> <p>コスモスは、栄養価が高く、食用としての栽培が可能です。コスモスを使ったレシピを市広報に掲載することで、認知度が上がることも考えられます。また、花びらは石鹼の染料として活用もできます。石鹼の手作り体験を実施して、世代間交流と認知症予防につなげていくこともできると考えられます。</p> <p>このように、コスモスは新しい可能性に満ち溢れています。大規模な農地やハウスをつくったり企業とコラボしたりしながら、市内全域でコスモスの栽培を促進していくのはどうでしょうか。秋には、コスモスの美しい風景が広がり、観光名所となるところもあるかもしれません。まさに「大仙市の花」であるコスモスを生かした街づくりになるのではないのでしょうか。</p> <p>市としての考えを聞かせてください。</p>

上記のとおり通告します。

令和4年12月12日

大仙市立中仙中学校

2年 森川 奈央  
2年 藤田 悠亜

大仙市中学生議会 議長 様

決議案第4号

「SDGsを意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議案の提出について

標記について、別紙のとおり提出する。

令和5年1月11日

提出者	大仙市中学生議員	大曲中学校	田	口	楓	恋
		〃	茂	木	一	歩
		大曲西中学校	深	川	壮	太
		〃	伊	藤	優	虹
		大曲南中学校	伊	藤	旬	里
		〃	古	谷	美	結
		平和中学校	菅	原	麻	愛
		〃	細	谷	冬	芽
		西仙北中学校	金	子	航	大
		〃	田	口	愛	彩
		協和中学校	山	谷	南	紗
		〃	武	藤	秀	飛
		南外中学校	佐々	木	百	惠
		〃	今	野	鈴	音
		仙北中学校	田	村	兼	将
		〃	藤	倉	嘉	輝
		太田中学校	草	薨	大	翔
		〃	佐々	木	佑	季音

「SDGs を意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議（案）

私たち大仙市の中学生は、「ふるさと大仙のよさ」を大切に守り続けるとともに、大仙市の未来をつくる主役として、地域の皆さんと力を合わせてSDGs を意識した行動をし、笑顔が広がるまちを創造していきます。

中学校名	目指す市の姿
大曲中	日常にSDGs の視点を持ち、一人一人が未来を考えるまち
大曲西中	多様な関わりから、思いやりと喜びを感じるまち
大曲南中	「考える機会」が充実し、SDGs の達成に向けて行動するまち
平和中	防災対策が整備され、安心・安全に暮らせるまち
西仙北中	学校と商工業との協力で活力を生み出すまち
中仙中	大仙市の花コスモスの栽培・活用で農業が発展するまち
協和中	困りに寄り添い、「誰一人取り残さない社会」を実現するまち
南外中	子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に広く親しむまち
仙北中	ゼロカーボンの実現にむけて、資源回収・循環を促進するまち
太田中	花壇を中心として、市民の交流が拡大するまち

以上、決議する。

令和5年1月11日

大仙市中学生議会

## <開会式>

### ◆ 後藤 <sup>たかし</sup> 健 大仙市議会議長あいさつ



皆さん、おはようございます。

大仙市議会議長の後藤健と申します。

中学生議会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は、市内10中学校の代表である20人の中学生議員の皆さん、今日ちょっと春らしいところもありますけれども、大変なこの冬の中、また、冬休みの大変お忙しい中、貴重な時間を使いまして、ようこそお越しくございました。市議会を代表いたしまして、心より歓迎を申し上げたいと思います。

また、傍聴席には保護者の皆さんをはじめ、ご協力をいただきました学校関係者の多くの方々からお集まりをいただき、中学生

議会がこうして開催できますことを心より感謝申し上げたいと思います。

さて、皆さんが今、お集まりのこの場所は、大仙市議会の本会議場という所でございます。私たち市議会議員が市民を代表して、大仙市をさらに良くしようというような思いから、市が行う様々な事業などに対しまして質問や提案を行い、議決、その提案された事項を決定する場所であります。従って、大変重要な場所であり、厳格な場所であります。

本日は、私たち市議会議員に代わって、将来を担う中学生議員の皆さまから大仙市のまちづくり、福祉、教育文化など身近な問題について質問していただき、さらに大仙市の将来の都市像について語っていただけるということで、たいへん楽しみにしているところでございます。

本日の質問を行うに当たり、中学生議員の皆さん、おそらくたくさん準備をして、ふるさと大仙をいろんな角度から見つめ直したことと思います。

第1回目の中学生議会では、中学生議員から提案された「大仙市のゆるキャラ作成」が、市のマスコットキャラクター「まるびちゃん」の誕生につながりました。本日も、中学生ならではの発想とエネルギーな質問を大いに期待しております。

市議会といたしましても、皆さんから出された意見や提案を、今後の大仙市のまちづくりの参考とさせていただきます。

結びに当たりまして、本日の中学生議会が、参加されているお一人お一人にとって、貴重な体験の場となりますこと、将来、皆さんの中から市議会議員や市長が誕生してくれることを期待し、挨拶といたします。

皆さん、元気いっぱい頑張ってください。

# ＜中学生議会＞

令和5年 大仙市中学生議会会議録第1号

令和5年1月11日（水曜日）

議事日程第1号

令和5年1月11日（水曜日）午前10時36分開議

- 第1 議席の指定
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 会期の決定（1日間）
- 第4 一般質問
- 第5 決議案第4号「SDGsを意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議

出席議員（20人）

1番	田口楓	2番	茂木	3番	深川
4番	伊藤優	5番	伊藤旬	6番	古谷
7番	菅原麻	8番	細谷冬	9番	金子
10番	田口愛	11番	森川奈	12番	藤田
13番	山谷南	14番	武藤秀	15番	佐々木
16番	今野鈴	17番	田村兼	18番	藤倉
19番	草薨大	20番	佐々木佑		

欠席議員（0人）

遅刻議員（0人）

早退議員（0人）

説明のため出席した者

市長	老松	副市長	佐藤
副市長	今野	教育長	伊藤
代表監査委員	武田	上下水道事業管理者	舛谷
総務部長	福原	企画部長	伊藤
市民部長	谷口	健康福祉部長	佐々木
農林部長	渡辺	経済産業部長	富樫
観光文化スポーツ部長	伊藤	建設部長	佐々木
病院事務長	今	教育委員会事務局長	築地
総務部長兼総務課長	小林		

議会事務局職員出席者

局長	斎藤	参事	富樫
主幹	佐藤	主幹	佐々木
主査	藤澤	主任	小山田

午前10時36分 開 会

○議長（藤田悠亜） 皆さん、おはようございます。

先ほど、ご紹介をいただきました議長の中仙中学校、藤田悠亜です。

○議長（森川奈央） 同じく、森川奈央です。

○議長（藤田悠亜） 私たちのまち大仙市が、希望に満ちた住みよいまちになるように、今日の中学生議会を頑張りたいと思いますので、中学生議員の皆さんのご協力をお願いいたします。

また、本日は、市長さん、市議会議長さんをはじめ、多くの関係者の皆さんにご出席をいただき、ありがとうございました。

それでは、ただ今より、令和5年大仙市中学生議会を開会いたします。

市長さんから招集の挨拶があります。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 皆さん、おはようございます。

大仙市長の老松博行と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日は、令和5年大仙市中学生議会を招集いたしましたところ、皆さんからは議員としてご出席いただきまして、誠にありがとうございます。



また、将来の大仙市を背負って立つ皆さんが、議場に一堂に会する姿を目の前にし、大変心強く感じているところでありますし、また、私自身も新年早々、元気をいただいたところであります。

大仙市中学生議会は、各中学校の代表の皆さんが、実際に議会の議長や議員になって、まちづくりに対する質問や提案を行うことにより、地方自治の車の両輪に例えられます市の執行機関と市議会について、理解を深めたり、興味を持ってもらうことを目的としております。この取り組みは、平成26年から3年に1度開催されており、今回が4回目となるものであります。

私は、皆さんがこうした機会を通じて、まちづくりについて問題意識を持つことは、様々な場面で学びの質を高めることにつながるだけでなく、今後の人生において貴重な体験になるものと思っております。

また、皆さんに、中学生らしい新鮮な視点や切り口で、まちづくりへの質問や提案を行っていただくことは、市にとりましても大変貴重な機会であるというふうに捉えております。

皆さんからの質問につきましては、通常の市議会に倣い、質問項目について事前に通告をいただいております。

その項目には、SDGsやカーボンニュートラル、防災、健幸まちづくりなど、まさに市の重要施策に関する事項が並んでおり、また、これらの多くは、実際に皆さんが学校で取り組んでいる事項をテーマとするものでありますので、大変興味深く拝見し、また、大変感心したところであります。

質問の詳しい内容につきましては、この後、実際に皆さんの声で直接問いかけや提案をしていただくわけではありますが、私たちもこの日のために、関係部局で打ち合わせをしたところであります。

皆さんの質問をしっかりと伺いし、皆さんとともに、より良い大仙市をつくっていくという思いで、誠心誠意お答えさせていただきたいと思っております。

本日は、この中学生議会が、お互いにとりまして有意義な場となり、それが大仙市の発展や、ふるさとへの思いやりの気持ちの醸成につながりますことを心からご期待いたしまして、私からの招集の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【老松市長 降壇】





---

○議長（藤田悠亜） これより、本日の会議を開きます。

---

○議長（藤田悠亜） 本日の議事は、議事日程第1号をもって進めます。

---

○議長（藤田悠亜） 日程第1、議席の指定を行います。

議席は、議長において指定いたします。議席番号と氏名を読み上げますので、呼ばれた方は「はい」と返事をし、その場でご起立願います。

（議長 議席番号、学校名、氏名を読み上げる。）

○議長（藤田悠亜） ただ今、読み上げましたとおり、議席を指定いたします。

---

○議長（藤田悠亜） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、議席番号1番、大曲中学校、田口楓恋さん。3番、大曲西中学校、深川壮太さん。5番、大曲南中学校、伊藤旬里さん。

以上、3名の方々をお願いいたします。

---

○議長（藤田悠亜） 日程第3、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。中学生議会の会期は、本日1日にいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤田悠亜） ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日と決定いたしました。

---

○議長（藤田悠亜） 日程第4、一般質問を行います。

一般質問は通告書のとおり、学校ごとに行います。順次、質問をお願いします。

最初に西仙北中学校、9番、金子航大さんと、10番、田口愛彩さんをお願いします。

○西仙北中学校（金子航大） はい、議長、9番。

○西仙北中学校（田口愛彩） はい、議長、10番。

【西仙北中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（藤田悠亜） それでは9番、金子さん、質問をお願いします。

○西仙北中学校（金子航大） 西仙北中学校の金子航大です。

経済産業部に大仙市の経済と商工業の活性化について質問します。



西仙北中学校では、地域の和菓子屋「和栄堂」さんに協力をいただいて、授業や職場体験学習でアイデアを出して作った和菓子やドーナツを商品化しています。

和菓子は学校祭で販売しています。毎回好評で、すぐに完売となっています。

また、ドーナツは「和栄堂」さんの店頭以外に、刈和野の「マックスバリュ」さんや大曲の「しゅしゅえっとまるしえ」さんに「西仙北中生とのコラボ商品」として置かれています。今年の学校祭では合計320個を販売し、1日の売り上げが6万4千円になりました。

生徒の出したアイデアが商品化されるこの取り組みは、生徒の自己有用感が高まることにつながっています。保護者や地域の方々に喜んで交流していただいていることに加え、うれしいことにお店からも、生徒の発想に刺激を受けているとの声をいただいています。

また、大曲中学校でも県内企業とコラボした「りんごボート」が発売されており、ニュースとして報道されていました。



これらのことから、大仙市の各地域で、このような生徒のアイデアを生かした商品開発の取り組みを地元企業と連携協力して行うことで、大仙市全体の地域経済や商工業の活性化につなげていくことはできないかと考えています。

ぜひ、市としての考えを聞かせてください。

○議長（藤田悠亜） 質問が終わりました。答弁をお願いします。佐藤副市長さん。

【佐藤副市長 登壇】

○副市長（佐藤芳彦） 西仙北中学校、金子航大さん、田口愛彩さんの質問にお答えをいたします。

西仙北中学校の皆さんが取り組んでおります、和栄堂さんとのコラボレーション商品は、西仙北地域にとどまらず、大仙市全体に元気を届け、地域活性化に大きく貢献していただいております。この場をお借りしまして、皆さま方にお礼を申し上げます。ありがとうございます。



大仙市内では、西仙北中学校のほかにも、大曲中学校では、たけや製パンとりんごボートの共同開発や、お勧めの店舗を掲載したオリジナルマップを作成し、東京にあります秋田県のアンテナショップなどに置かせていただく取り組みをしております。また、中仙中学校では、道の駅なかせんでドンパン祭りの缶バッジの販売をしております。そして南外中学校では、南外さいかい市のブランドスイーツの開発やパッケージデザイン

の制作などが行われております。

このような中学生ならではのアイデアや視点を加えた商品開発は、市内の魅力を掘り起こし、地域愛あふれる大仙市らしい商品が生まれることから、地域経済や商工業の活性化につながるものと考えており、多くの取り組みが実施されることを期待しております。

市内には魅力的な商品やサービスを展開する事業所が多数ありますので、今後の商品開発に期待をするとともに、大仙市の各地域でも、それぞれの地元企業との連携による商品開発が今後も進められるよう、市としても積極的に支援をしております。

以上でございます。

【佐藤副市長 降壇】

○議長（藤田悠亜） 再質問はありませんか。

○西仙北中学校（田口愛彩） はい、議長。

○議長（藤田悠亜） はい、10番、田口さん、再質問をお願いします。

○西仙北中学校（田口愛彩） 西仙北中学校の田口愛彩です。再質問をします。



地域経済や商工業の活性化のために、中学生の私たちが参加したり関わったりできる事業や取り組みは、今現在、行われているものでしょうか。

また、普段の生活の中で、中学生の私たちが意識したり行動したりできることはあるものでしょうか。

もしありましたら、教えてください。

○議長（藤田悠亜） 再質問に対する答弁をお願いします。佐藤副市長さん。



○副市長（佐藤芳彦） 西仙北中学校の金子航大さん、田口愛彩さんの再質問にお答えを申し上げます。

はじめに、地域経済や商工業の活性化のために、中学生の皆さんが参加できる事業ということであり、大仙市では今年度、若者チャレンジ応援プロジェクトという事業を立ち上げたところでございます。この事業では中学生や高校生も対象になっております。地域の課題の解決や活性化、そして大仙市の将来の夢に向かって行動する若者を応援する事業でございます。今年度は、秋田修英高校と大曲高校の皆さんから、この事業に参画していただきました。それぞれ地域の課題解決に向けた取り組みを行っていただいたところであります。中学生や高校生の皆さんが地域のことをより深く知り、自ら行動をしていただくことで郷土愛の醸成につながり、将来的な市内の定着が進んでいくものではないかというふうにご期待をされているところでございます。皆さんからも、ぜひ、こうした事業を活用していただいて、地域活性化の取り組みに積極的に参加をしていただきたいと思います。



そして次に、普段の生活の中で意識して行動したりできることというご質問でございます。私たちのふるさとであります大仙市の魅力、あるいは大仙市の将来あるべき姿を実現するためには、やはりまず「自分には何ができるのかな」ということを、常々こう考えていただくことが大切ではないのかなというふうに思っております。そして、その中から生まれてくる皆さんの様々なアイデア、あるいはチャレンジがですね、将来の市の活性化につながっていくものというふうにご考えておりますので、ぜひ、皆さんにもこういったことを意識しながら、様々な事柄に取り組んでいただきたいと思いますというふうにご思っているところであります。

以上でございます。

○議長（藤田悠亜） これにて西仙北中学校、9番、金子航大さんと、10番、田口愛彩さんの一般質問を終わります。

【西仙北中学校議員 自席へ】

○議長（藤田悠亜） ここで、議事の進行を森川奈央さんと交代するため、暫時休憩いたします。

午前10時54分 休 憩

午前10時54分 再 開

○議長（森川奈央） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここからの議事を進行します、中仙中学校の森川奈央です。よろしくお願いたします。

一般質問を続けます。

次に大曲中学校、1番、田口楓恋さんと、2番、茂木一步さんにお願いたします。

○大曲中学校（田口楓恋） はい、議長、1番。

○大曲中学校（茂木一步） はい、議長、2番。

【大曲中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（森川奈央） それでは1番、田口さん、質問をお願いします。

○大曲中学校（田口楓恋） 大曲中学校の田口楓恋です。

企画部にMy SDGsという取り組みの市民への波及の可能性について質問します。

大仙市は今年度「SDGs未来都市」に選定されました。大仙市のホームページを見ると、それぞれの目標に対しての世界や日本の現状、私たちが日常的にできる取り組み、市が行っている取り組みが紹介されています。SDGsは持続可能な社会の実現のために、一人一人が「自分のこと」として



考え、身近なことから行動していかなくてはなりません。しかし、SDGsや大仙市の取り組みなどの情報は周知されていないように思います。本校でアンケートを実施したところ、大仙市がSDGs未来都市に選定されたことを知っている生徒は2パーセント、大仙市がどのような取り組みをしているのか知っている生徒は1パーセントでした。本校だけでのアンケートでしたが、市民の皆さんも同じような状況ではないかと推測されます。



本校では、My SDGsとして共通の目標に対して自分が取り組むことを決め、振り返りを行っています。また、冬休みには「冬休みMy SDGs」として、政府からの節電要請にも歩調を合わせ「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」という目標7について、生徒会が節電など、自分たちができる取り組みを紹介し、冬休み中に、全校生徒746名の生徒一人一人が意識することを設定し、実践しています。今回、私たちの取り組み「My SDGs」を大仙市に広げてみてはどうかと考えました。

私たちが提案するのは、具体的にはMy SDGsカレンダーやMy SDGsアプリの作成です。

カレンダーでは、17の目標のうち、月ごとに意識する目標を設定できたり、日常生活でできる取り組みの例や市のSDGs関連イベント等を紹介したりするなど、広く周知してもらえるように各家庭に配布します。また、市のホームページやMy SDGsアプリのQRコードを載せて、それらに気軽にアクセスできるようにしたらいかがでしょうか。

アプリでは、自分が意識していることや取り組んだことが、どの目標に当てはまるのか確認できるようにして達成感を得られるだけでなく、自分の取り組みをチェックしてポイント制にしたり、ためたポイント数に応じて地域で使えるお買い物クーポンが発行されたりすると、市への経済効果も合わせて、より多くの人に取り組んでくれるのではないかと考えました。

大仙市と一人一人の市民の取り組みが双方向に作用していけば、それは持続可能なまちづくりにつながると思います。

この提案について、SDGsの推進に関する現状と今後の計画を教えてください。よろしくお願いします。



○議長（森川奈央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。今野副市長さん。

【今野副市長 登壇】

○副市長（今野功成） 大曲中学校、田口楓恋さん、茂木一步さんの質問にお答えします。



大仙市では、いち早くSDGs推進方針を策定し、市の全ての施策にSDGsの視点を取り入れるとともに、昨年5月には国のSDGs未来都市の選定を受け「Well-beingにあふれ、未来に向けて持続発展する田園交流都市だいせん」を将来都市像に、カーボンニュートラルの推進や若者チャレンジ応援プロジェクト、健幸まちづくりプロジェクトなど、経済・社会・環境の3側面から各種取り組みを進めています。この計画については、昨年8月に開催された中学生サミットにおいて内容をご説明したところですが、より多くの皆さんに浸透するよう、今後も様々な機会を捉えて市の取り組みを発信していきたいと考えています。

SDGsが目指す「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現には、お二人の質問にもありますとおり「一人一人がSDGsを自分のこととして考え、行動に移すこと」が重要であり、まずはSDGsへの理解を深めていただくことがその第一歩と捉えています。

市では、こうした考えのもと、広報やホームページ、SNS等を通じて積極的に情報発信を行って



いるほか、多くの人々が訪れる大曲駅前への大型看板設置や市役所へのポスター掲示、図書館への特設コーナー設置など様々な場面で周知に努めています。

このような取り組みにより、市民アンケートでは回答者の77.8パーセントがSDGsを知っていると回答するなど、認知度は着実に向上していますが、一方で、40代を境に年代が上がるにつれて下降しており、80代以上では5割ほどにとどまるなど、高齢世代への周知が課題となっています。



こうしたことから、行政情報の入手手段として最も活用されている広報紙を中心に情報発信の強化に取り組んでいるところであり、新たに設けた特別連載コーナーで17の目標を毎月一つずつ取り上げ、市の取り組みや皆さんが取り組める身近な行動などを分かりやすく紹介しています。

さて、今回のご提案であります、中学生ならではの柔軟性に富んだフレッシュなアイデアとして興味深く拝聴させていただきました。

一つ目のカレンダーに関するご提案であります、SDGsを周知する有効なツールの一つになり得るものと受け止めています。今後、ご提案のカレンダーも含め、様々な媒体による周知方法について研究を重ね、できることから行動に移していきたいと思っています。その具体的な行動の一つとして、まずは多くの市民の皆さんから読んでいただいている市の広報内容の強化から取り組んでいきたいと考えています。また、ご提案のQRコードの活用については、デジタルトランスフォーメーションの推進の観点からも効果が期待できるものと捉えており、市が発行する様々な配布物への掲載について検討していきたいと思っています。

二つ目のアプリに関するご提案についても、SDGsの浸透と地域経済の活性化を組み合わせた仕組みは、様々な相乗効果が期待できるアイデアだと捉えています。折しも人口減少の進行に伴い、スマート自治体への転換が求められる中、行政サービスのデジタル化が急務となっていますので、その検討にあわせ、周知方法の一つの形として、実現性を含めて研究してみたいと考えています。

いずれにいたしましても、SDGsの実現には、皆さんのような若い世代の強い思いや積極的な行動が大きな力になります。皆さん一人一人が大仙市の未来をつくる主役でありますので、今後の市の発展の原動力として、大いにその力を発揮していただきたいと思っています。

#### 【今野副市長 降壇】



○議長（森川奈央） 再質問はありますか。

○大曲中学校（茂木一步） はい、議長。

○議長（森川奈央） はい、2番、茂木さん、再質問をお願いします。

○大曲中学校（茂木一步） 大曲中学校の茂木一步です。再質問をします。

カレンダーやアプリを作成するとしたら、デザインなど、私たち中学生が参加できることがあれば教えてください。

○議長（森川奈央） 再質問に対する答弁をお願いします。今野副市長さん。

○副市長（今野功成） 大曲中学校、田口楓恋さん、茂木一步さんの再質問にお答えいたします。

改めて申し上げます、SDGsの実現に向けては「一人一人がSDGsを自分のこととして捉えて、行動に移すこと」が重要だと思います。何よりも自ら気づき、そして自発的に行動を起こすこと、継続的に取り組むことが市全体への波となって、SDGsの推進に結び付くと考えています。

昨年の中学生サミットでも、各校の発想を取り入れて、地域と協力して、SDGsをさらに広げていくということで、中学生サミットの宣言を採択されたと伺っています。皆さんのような若い世代の思いや行動は、多くの人々に影響を与えていただけたと思います。皆さんのような柔軟な発想で、地

域全体でSDGsの輪を広めていただきたいと思います。

市としても皆さんと一緒に、SDGsの波及に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、今後も皆さん、よろしくお願いいたします。

- 議長（森川奈央） これにて大曲中学校、1番、田口楓恋さんと、2番、茂木一步さんの一般質問を終わります。

【大曲中学校議員 自席へ】

- 議長（森川奈央） 次に大曲西中学校、3番、深川壮太さんと、4番、伊藤優虹さんをお願いします。

○大曲西中学校（深川壮太） はい、議長、3番。

○大曲西中学校（伊藤優虹） はい、議長、4番。

【大曲西中学校議員 対面式演壇へ登壇】

- 議長（森川奈央） それでは3番、深川さん、質問をお願いします。

○大曲西中学校（深川壮太） 大曲西中学校の深川壮太です。



健康福祉部に「思いやり」や「喜び」を感じられる心のふれ合い交流について質問します。

市のホームページによると、健幸まちづくり推進室では「夢」につながる元気な体をつくるために小中学生向けのプロジェクト動画を作ったり、活動量計の配布や学校への送信機、リーダーライターの設置をしたりする等、小中学生の健康向上に向けた取り組みが行われており、大変ありがたく思っています。健康な心や体は、世代を超えて大切なものだと考えます。市全体で異世代交流や障がい者理解の場や機会を増やすことで、いつまでも心も体も元気で笑顔いっぱいの「健幸」な市民が一人でも多くなることを、私たちは願っています。そこで「思いやり」や「喜び」を感じられる心のふれ合い交流の市全体への発展性について、次の2点を提案します。

一つ目は、小中学生が近隣の高齢者施設等へ訪問し、お年寄りの方々と一緒にできる活動やボッチャ等のスポーツ交流の機会を作っていただくこと。

二つ目は、ふれ合い交流をより市全体に広げていくために、車いすバスケットボールやボッチャ交流会等を開催し、各地域でそのような企画に賛同してくれる小中学校を募り、協働で活動していくような場や機会をつくっていただくこと。

以上、二つの提案について、市の考えを教えてください。

- 議長（森川奈央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 大曲西中学校、深川壮太さん、伊藤優虹さんの質問にお答えいたします。

はじめに、お年寄りの方々と一緒にできる活動やボッチャ等を通じた交流の機会をつくってはどうかのご提案につきましては、以前は、各高齢者施設と地域の小・中学校の児童・生徒が交流できる機会がありました。しかしながら、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、様々な活動に制限が生じ、高齢者施設では現在も、外部との接触を避けるなどの感染対策が講じられております。

今回、いただきましたご提案は、高齢者がボッチャなどの新しいレクリエーションを通じて子どもたちと触れ合うことで、生きがいや楽しみを感じることができる交流についてであります。今後、感染が落ち着き、各高齢者施設におきましてボランティアの受け入れが再開されましたら、市といたしましても、小・中学校の児童・生徒の皆さんが、高齢者施設を訪問できるように支援してまいりたいというふうに考えております。

次に、車いすバスケットボールやボッチャの交流会を各地域で開催し、小・中学校との協働で活動



する場や機会をつくることにつきましては、教育委員会では、平成29年度の文部科学省の心のバリアフリー推進事業や、平成30年度からの総務省の人権ユニバーサル事業により、車いすバスケットボールの体験教室を開催いたしました。

この教室は、体験を通じて相手への思いやりや、相手の立場に立った行動について考えるなど、生徒や教職員及び保護者の皆さんの障がい者への理解の促進を図ることを目的としているもので、これまで大曲西中学校、大曲南中学校、平和中学校、及び南外中学校の4中学校において開催されております。



また、ボッチャにつきましても、障がいのあるなしに関わらず取り組めるスポーツでありますので、相手の立場を思いやり、スポーツを通じた喜びを感じるための交流の場を、今後、小・中学校等の協力を得ながらつくっていきたいと思っております。

【老松市長 降壇】

○議長（森川奈央） 再質問はありますか。

○大曲西中学校（伊藤優虹） はい、議長。

○議長（森川奈央） はい、4番、伊藤さん、再質問をお願いします。

○大曲西中学校（伊藤優虹） 大曲西中学校の伊藤優虹です。再質問をします。

高齢者や障がい者の方々と一緒に活動するに当たって、市ではボッチャのセットが幾つあるのか。他にどのような道具が幾つぐらいあるのか、また、そういう方々に喜んでもらえることやニーズが分かっているとすれば、それも教えてください。

重ねて、交流の際に車いすバスケットボール等の指導者を派遣していただくことは可能か、小中学生のバス等の移動手段の協力をしているのかについても教えてください。

○議長（森川奈央） 再質問に対する答弁をお願いします。老松市長さん。

○市長（老松博行） 大曲西中学校、深川壮太さん、伊藤優虹さんの再質問にお答え申し上げます。

市では、ボッチャの用具を8セット所有しております。

その他、障がい者スポーツの用具につきましては、一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会で、フライングディスクやサウンドテーブルテニスなど10種類の用具を保有しており、それぞれ貸し出しが行われております。ニーズにつきましては、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できておりませんが、これまで大仙市身体障害者福祉協会の主催によりまして、グラウンドゴルフ大会、それからフライングディスク大会などの軽スポーツ教室が開催されております。そして多くの皆さまから参加していただいたことから、好評であったというふうに受け止めております。

市内には、車いすバスケットボールとボッチャの指導者の方がそれぞれ1名いらっしゃいます。交流会等が開催される際には、ご希望があれば一緒に競技をしたり、指導をしていただけるということでありました。

また、交流会等に参加する際のバス等につきましては、学校などとも相談しながら、利用できるようにしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（森川奈央） これにて大曲西中学校、3番、深川壮太さんと、4番、伊藤優虹さんの一般質問を終わります。

【大曲西中学校議員 自席へ】





○議長（森川奈央） 次に大曲南中学校、5番、伊藤旬里さんと、6番、古谷美結さんをお願いします。

○大曲南中学校（伊藤旬里） はい、議長、5番。

○大曲南中学校（古谷美結） はい、議長、6番。

【大曲南中学校議員 対面式演壇に登壇】

○議長（森川奈央） それでは6番、古谷さん、質問をお願いします。

○大曲南中学校（古谷美結） 大曲南中学校の古谷美結です。

教育委員会にSDG s達成に向けた取り組み拡大について質問します。

大仙市は「SDG s未来都市」に指定されています。そのため、現在、大曲図書館や各小中学校にSDG s関連の本がたくさん置いてあり、多くの方がSDG sについて考える環境づくりをするなど、SDG sの達成に向けた取り組みを積極的に進めています。

大曲南中学校でも、4月から様々な講演会やワークショップを通して、SDG sについて考えてきました。7月に行われたキリバス国籍のケンタロ・オノさんによる気候変動の講演会では「自分たちが、もし校長先生や市長になったら…」というテーマで話し合いを行いました。グループで話し合いをすることによって、様々な視点から私たちにできることは何かを考えることができました。また、10月にはキリバスの中学生とリモートで気候変動についてお互いの現状を共有し、意見交換を行いました。このような貴重な体験を通して感じたこと、考えたことなどを市内の小中学校や地域などにも広め、持続可能な社会を私たちの手で作り上げていきたいと考えようになりました。そこで、私たちが提案したいのは次の二つです。

一つ目は、誰でも参加可能なSDG sワークショップの開催です。小中学生や地域の皆さんが、実際に参加したり体験したりすることにより、今よりもっと自分事として考え、行動に移そうとするきっかけになると思います。ワークショップについては、一般社団法人あきた地球環境会議や県内外の企業、大学などとの連携で、冒頭でお伝えした講演会やオンライン交流など、様々な形で参加が可能だと思います。

二つ目は、ホームページや「だいせん日和」の活用です。ワークショップの様子や参加者からの感想を掲載したり、各小中学校や地元企業で取り組んでいるSDG sの取り組みを紹介したりすることにより、多くの方が自分にもできそうだと思ったり、やってみようと思ったりするのではないのでしょうか。

この提案について、現状と今後の計画をお聞かせください。

○議長（森川奈央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。伊藤教育長さん。

【伊藤教育長 登壇】

○教育長（伊藤雅己） 大曲南中学校、伊藤旬里さん、古谷美結さんの質問にお答えいたします。



はじめに、SDG sワークショップの開催についてです。貴校が、第23回環境美化教育優良校等表彰文部科学大臣賞を受賞されたのは、常に生徒一人一人がSDG sの視点を持ち、環境美化への取り組みを積み重ねた成果と捉えております。

教育委員会といたしましては、ワークショップなどの体験的な活動は大切だと考えていますが、実施に当たっては移動手段の確保や時間の調整が必要となることから課題があると捉えています。そこで、まずは各学校の総合的な学習の時間、あるいは児童会・生徒会活動、PTA講演会などで実施できるようワークショップの実践例の紹介や情報提供をしていきたいと考えています。併せて、中学生サミット事務局校や各校で発行するREVO通信等を活用して情報提供をお願いしたいと考えているところです。



次に、だいせん日和を通じたSDG sの取り組みの紹介については、現在、だいせん日和では、SDG s 17の目標を番号順に紹介し、日常的にできる取り組みや市の取り組みを紹介しているところですが、学校や地元企業で身近に行われているSDG sの取り組みを紹介することは、市民の皆さんにSDG sについて考えていただけるきっかけとなる、とてもいいアイデアだと思います。ぜひ、だいせん日和をはじめ、ホームページなどにも掲載し、広く紹介させていただきたいと思います。



教育委員会としては、SDG sの視点を踏まえた各校の取り組みの推進が図られるよう、引き続き、情報の収集や発信をしていきたいと考えております。今後も大曲南中学校の皆さんが、本市SDG sのけん引役としての活躍をしてくれることを期待しております。

【伊藤教育長 降壇】

○議長（森川奈央） 再質問はありませんか。

○大曲南中学校（伊藤旬里） はい、議長。

○議長（森川奈央） はい、5番、伊藤さん、再質問をお願いします。



○大曲南中学校（伊藤旬里） 大曲南中学校の伊藤旬里です。再質問をします。

毎年行われている中学生サミットに、ワークショップを取り入れてみるのはいかがでしょうか。各中学校の代表者が集まる場ですので、より活発な意見交換ができると思いますし、小学生や地域の代表者の方も一緒に考えることができれば、未来都市大仙についても様々な視点から多くの意見が出されるのではないのでしょうか。ご意見をお聞かせください。

○議長（森川奈央） 再質問に対する答弁をお願いします。伊藤教育長さん。

○教育長（伊藤雅己） 大曲南中学校、伊藤旬里さん、古谷美結さんの再質問にお答えいたします。

中学生サミットにおけるワークショップについては、9年前に実施したことがございます。

このワークショップは、スーパーエコシティ大仙を考えることを目的として開催されたもので、参加した各校生徒会の皆さんの意欲・発想ともに、とても素晴らしいものであったと伺っております。

各校のリーダーである生徒会役員の皆さんの意識の高まりは、学校全体への波及効果も高いものと考えております。

今後、中学生サミットの開催に当たっては、テーマに合ったワークショップが可能であるかどうか、中学生サミットの事務局校と話し合いながら進めていきたいと考えています。



○議長（森川奈央） これにて大曲南中学校、5番、伊藤旬里さんと、6番、古谷美結さんの一般質問を終わります。

【大曲南中学校議員 自席へ】

○議長（森川奈央） 次に平和中学校、7番、菅原麻愛さんと、8番、細谷冬芽さんをお願いします。

○平和中学校（菅原麻愛） はい、議長、7番。

○平和中学校（細谷冬芽） はい、議長、8番。

【平和中学校議員 対面式演壇に登壇】

○議長（森川奈央） それでは7番、菅原さん、質問をお願いします。



○平和中学校（菅原麻愛） 平和中学校の菅原麻愛です。



総務部に避難所開設について質問します。

2011年3月11日。今から約11年前に東日本大震災は突然起こりました。家は半壊または全壊状態。太平洋沿岸部は津波に襲われ、死者・行方不明者は、現在1万6,423人います。そんな悲しみや苦しみ、苦勞をした被災地の方々のために、そして、いつ避難所を開設しても避難してきた方々が安心して過ごせるように、本校では、大槌町との被災地交流と避難所開設訓練を始めました。こうした避難所開設訓練をはじめとする様々な活動が認められ、今年度「学校安全功労者内閣総理大臣賞」を受賞しました。

さらに、本校3年生の藤井麻衣さんが中学生防火防災弁論大会において「多くの命を救うために」というタイトルのもと発表し、最優秀賞を受賞しました。私はその発表を直接視聴したわけではありませんが、弁論の内容について話を聞きました。そこから見えてきたのが、今後の避難所運営における改善点です。

今から5年前、平成29年7月下旬、大仙市は記録的な大雨の被害に見舞われました。浸水する家屋も多く、平和中学校が避難所になりました。そのときに、老人ホームの職員の方々から、次のような声があったようです。

一つ目は「施設から避難所までの搬送にかなりの時間がかかった」というものです。実際の避難における人手不足が浮き彫りになったようです。

二つ目は「他の住人も避難しているため、それぞれのプライバシーを守るのが大変だった」という声です。避難所を運営する上で最も細心の注意を払うべき内容だと思います。

最後は「デイサービスを利用している人は、ほとんどが1人暮らしのお年寄りなので、避難時の情報が入手できずに大変怖い思いをした」というお年寄りの生の声でした。避難情報をどのように伝えたらよいか、しっかり考えなければいけないと思いました。

そこで、高齢者や障がい者等、支援が必要な方々の視点での安全な避難方法を模索したり、高齢者施設等との合同避難訓練を行ったりしてはいかがでしょうか。さらに、視覚障害や聴覚障害、肢体不自由などの様々な人の特性や特徴に応じて学校施設を有効活用する避難所運営ハンドブックを作成することもできると思います。SDGsにもある「災害に強い街づくり」につなげるためにも、これらを実施する価値はあると思います。



以上の提案について、どのような考えをお持ちでしょうか。現状と今後の計画も教えていただけるとありがたいです。

○議長（森川奈央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。佐藤副市長さん。

【佐藤副市長 登壇】

○副市長（佐藤芳彦） 平和中学校、菅原麻愛さん、細谷冬芽さんのご質問にお答えをいたします。

はじめに、要援護者の視点での安全な避難方法の確保についてであります。浸水や土砂災害の危険性がある区域内に位置する高齢者の皆さんや障がい者の皆さんが利用する介護施設、小・中学校、保育園などの施設につきましては、災害時に利用者の皆さんをどこに、どのように、どのタイミングで避難させるかなどを、あらかじめ定める避難確保計画の作成と、その計画を基にした避難訓練の実施が法律により義務化されております。

大仙市には、このような施設が141施設あることから、法により義務化される前の平成28年度から各施設での避難確保計画の作成を進め、県内でもいち早く全ての施設で作成済みとなり、避難訓練の実施につきましても、現在、力を入れて取り組んでいるところでございます。



また、在宅の高齢者や体の不自由な方々につきましては、スムーズに避難できるよう、あらかじめ誰が支援するのか、どのような配慮が必要なのかなどを決めておく個別の避難計画の作成や、自治会などを単位とした自主防災組織ごとに避難時のルールをあらかじめ決めておく地区防災マップの作成なども進めております。住民同士の共助による避難体制を確立できるように取り組んでおります。

さらに、避難情報などの発信につきましても、どのような方にも情報が届くように、メールやSNS、各種のアプリケーション、ホームページなどのスマートフォンを活用したもののほか、テレビや防災ラジオなど、複数の手段で情報を発信しております。

今後も、災害時には全市民の皆さんが安全に避難できますよう、時代に即したより良い情報発信の手段や伝え方などを取り入れて考えてまいります。

次に、学校と高齢者施設との合同避難訓練についてであります。ご質問にもありましたとおり、平成29年7月の大雨災害時には、特別養護老人ホーム愛幸園の入居者全員が平和中学校に避難しております。

この災害で人的被害を出すことなく、無事に避難できたことは、事前の避難確保計画の作成とともに、愛幸園と平和中学校が合同で避難訓練を行っていた賜物であります。この事例は新聞等にも取り上げられ、避難に関する好事例として全国的にも評価されております。

このような合同の避難訓練は、市内ではほかに例がなく、また、現在は新型コロナウイルスの影響によりまして、高齢者施設との連携は難しい状況ではありますが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後は、市としましても、合同避難訓練の実施を働き掛けてまいります。

また、平和中学校におかれましても、この取り組みを、ぜひ継続して行っていただきたいと考えております。

次に、避難所運営のハンドブックの作成についてであります。市では、平成27年に避難所開設を担当する市の職員向けに避難所運営マニュアルを作成しております。その中では、高齢者の皆さん、障がい者の皆さん、妊婦さんなどの要援護者の避難受け入れ要領についても盛り込んでいるところであります。

今後、さらに、そうした特性や特徴に応じたマニュアルとなるよう見直しを図るとともに、車中泊避難やペット同伴避難など、多様化する避難にも対応できるように取り組んでまいります。

以上でございます。

【佐藤副市長 降壇】

- 議長（森川奈央） 再質問はありませんか。
- 平和中学校（細谷冬芽） はい、議長。
- 議長（森川奈央） はい、8番、細谷さん、再質問をお願いします。
- 平和中学校（細谷冬芽） 平和中学校の細谷冬芽です。再質問をします。

大仙市では毎年「シェイクアウト訓練」を行っています。直近では令和4年1月23日、午前11時だったと記憶しています。このようにあらかじめ日時を定めて行う訓練ではなく、抜き打ちで行う方がリアリティがあると思います。もちろん、全くの抜き打ちでは混乱が生じるので、例えば「1月第3週の1週間のどこかで行う」と周知しておいて実施するというのはいかがでしょうか。

- 議長（森川奈央） 再質問に対する答弁をお願いします。佐藤副市長さん。
- 副市長（佐藤芳彦） 平和中学校の菅原麻愛さん、細谷冬芽さんの再質問にお答えを申し上げます。まずは、毎年、シェイクアウト訓練にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。



シェイクアウト訓練につきましては、友好交流都市であります神奈川県座間市からの提案で、毎年1月23日に両市の間で、合同で訓練を行っているものであります。

1月23日という開催日は、シェイクアウト訓練のキャッチフレーズであります「1. まず低く、2. 頭を守り、3. 動かない」という1、2、3にちなんで設定したものでございます。

昨年度の訓練で8回目を迎えておりますけども、より実践的なものになるように、市では大曲庁舎におきまして、1月23日の前々日の1月21日に抜き打ちで訓練を実施しております。

今年も1月23日に実施する予定であります。ただ今、ご提案がありました平和中学校さんの抜き打ち訓練ということでございますので、かならずしもこの1月23日でなくても、その前後の日でも大丈夫でございますので、ぜひ中学校におかれましては、先生方とご相談の上、抜き打ち訓練を行っていただければ、大変ありがたいなあというふうに思っているところであります。



市としましては、ご提案のとおり、リアリティのある訓練を全市的に行えるよう、まずは学校やそれぞれの事業所単位での実施についてホームページなどを通じてPRをしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。よろしくお願いたします。



○議長（森川奈央） これにて平和中学校、7番、菅原麻愛さんと、8番、細谷冬芽さんの一般質問を終わります。

【平和中学校議員 自席へ】

○議長（森川奈央） 一般質問の途中ですが、この際、昼食のため暫時休憩いたします。  
再開時刻は午後1時といたします。

午前11時43分 休 憩

午後1時00分 再 開

○副議長（金子航大） 休憩前に引き続き、会議を開きます。  
議長に代わり、議事を進行します副議長の西仙北中学校、金子航大です。

○副議長（田口愛彩） 同じく、田口愛彩です。

○副議長（金子航大） よろしくお願いたします。

一般質問を続けます。

次に協和中学校、13番、山谷南紗さんと、14番、武藤秀飛さんをお願いします。



○協和中学校（山谷南紗） はい、議長、13番。

○協和中学校（武藤秀飛） はい、議長、14番。

【協和中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（金子航大） それでは13番、山谷さん、質問をお願いします。

○協和中学校（山谷南紗） 協和中学校の山谷南紗です。

健康福祉部にSDGsの推進について質問します。







大仙市は今年度、SDGs 未来都市に選定されました。誰一人取り残されない社会、誰一人取り残されない大仙市をつくるために、私たちはどうしたらよいかを考えてみました。

私たち協和中学校は、いじめゼロを目指して、パープルリボン運動に取り組んでいます。世界的には女性への暴力の根絶や<sup>すいぞう</sup>膵臓ガンの啓発と撲滅を訴えるパープルリボン運動ですが、我が協和中学校では、名札に紫色のリボンを付けることで「いじめをしません」「いじめや困っている人を見逃しません」という意思表示をしています。この運動は、SDGs の 10 番目の目標「人や国の不平等をなくそう」という目標につながります。いじめによる差別をしない、お互いの違いを受け入れて理解するということが「誰一人取り残さない」社会につながると思います。

私たちはこの運動を、協和中学校の中だけではなく、大仙市全体にも広げていきたいと考えています。

この運動について、大仙市の皆さんに知ってもらうために、ポスター・PR 動画（大仙市 SNS の活用）・パンフレット・パープルリボングッズなどの制作を考えています。特に、グッズは、実際に手に取って見てもらうことで、運動の趣旨を理解してもらうことができるのではないのでしょうか。駅や市役所などの「人が集まる施設」に置いていただき、パープルリボン運動を大仙市全体に広げていくことは可能でしょうか。

また、協和中学校では、協和地域ふれあい弁当事業に協力しています。1 人暮らし高齢者に手作りのお弁当を届けるという活動ですが、私たち中学生は、そのお弁当に添えるお手紙を書いています。そのお手紙に「困ったことはないですか。困ったときはこちらへ」というカードを添えてみたらどうかと考えています。大仙市では、高齢者の見守りを、地域見守り協力事業所と連携して行っていると伺っています。高齢者に限らず、子育て世代や私たちのような若者を含めた「困っている人」を見逃さないために、そのサポート・支援策に関する市の現状と今後の計画について教えていただきたいと思います。



○副議長（金子航大） 質問が終わりました。答弁を求めます。今野副市長さん。

【今野副市長 登壇】

○副市長（今野功成） 協和中学校、山谷南紗さん、武藤秀飛さんの質問にお答えします。



はじめに、協和中学校で取り組んでいるパープルリボン運動を、大仙市全体に広げていくことについてですが、山谷さん、武藤さんの質問にもありましたとおり、パープルリボン運動には国際的に女性に対するあらゆる暴力をなくしていこうというメッセージが込められています。こうした世界の動きを踏まえ、協和中学校ではスクールカラーにちなみ、パープルリボン運動として、いじめや困っている人を見逃さないという強い思いで、独自の取り組みを進めていることをご紹介いただきました。

このような活動を広く市民の皆さんに知ってもらうため、ポスターやグッズなどを駅や市役所などの人が集まる施設に設置することについては、多くの方の目に触れる機会をつくることにつながりますので、市としても、皆さんの活動を応援していきたいと考えています。

皆さんの真っすぐな視点で制作されたポスターなどは、見る人に強く訴える力があると思いますので、大いに期待しています。

次に、協和地域ふれあい弁当事業において「困っていることはないですか」「困ったときはこちら

へ」というカードを添えることについては、高齢者にとって心の支えとなり、また、困りごと支援につながることでありますので、市としても、相談窓口として協力していきたいと考えています。

また、困った人を見逃さないためのサポートや支援策に関する市の現状と今後の計画については、市では現在、高齢者の見守りとして、大仙市地域見守り協力事業所との連携や、認知症高齢者への支援として認知症行方不明者SOSネットワークなどの事業を行っています。



これらの取り組みにより、何らかの異変を察知した場合には、関係機関と連携して高齢者の命と暮らしを守る体制を整えています。

また、子ども・障がい者・高齢者・生活困窮者などの方々については、自分のこと、家族のことなど複数の課題を抱えているケースが多く見られるようになってきており、課題全体を捉えて多角的に関わっていくことが必要となっています。

こうしたニーズに対応するため、従来の相談窓口同士が連携した、包括的な相談窓口の整備を行うとともに、困難を抱えている方に必要な支援を届けるアウトリーチ事業なども実施しながら、福祉分野でこれまで培ってきた地域の絆を強化していきたいと思っております。

さらに、悩みを相談しやすい環境づくりや、人と人、人と社会がつながり、市民一人一人が生きがいや役割を持ち、地域を共に創っていく地域共生社会を目指す取り組みを進めていきたいと思っております。

協和中学校の皆さんが目標としている「誰一人取り残さない」社会は、まさに地域共生社会の実現に通じる取り組みだと思っております。

市としては、SDGsの理念に基づく各校の取り組みが一層充実するよう、引き続き、できる限りの支援を行いたいと考えています。

また、今後も協和中学校の皆さんの取り組みを応援していますし、その取り組みが大仙市全体に広がることを期待しています。

#### 【今野副市長 降壇】

○副議長（金子航大） 再質問はありますか。

○協和中学校（武藤秀飛） はい、議長。



○副議長（金子航大） はい、14番、武藤さん、再質問をお願いします。

○協和中学校（武藤秀飛） 協和中学校の武藤秀飛です。再質問をします。

困っている人たちを取り残さないために、私たち中学生と一緒に活動できることがあれば、教えていただきたいと思っております。

○副議長（金子航大） 再質問に対する答弁をお願いします。今野副市長さん。

○副市長（今野功成） 協和中学校、山谷南紗さん、武藤秀飛さんの再質問にお答えします。

困っている人が取り残されないためには、住民同士の顔の見える関係づくりが重要だと考えています。そのためには、一人一人が地域に関心と思いやりを持って、普段から挨拶や声掛けをすることで、地域とのつながりを持っていただきたいと思います。

そうすることで、他人に迷惑を掛けたくないと思っていたり、住民同士の付き合いが少ないため、困っていても相談できないと思ったりしている方たちを救うことができるのではないかと考えています。

中学生の皆さんも、隣近所で困っている方などを見かけたときには、積極的に声掛けなどを行っていただきたいと思います。

○副議長（金子航大） これにて協和中学校、13番、山谷南紗さんと、14番、武藤秀飛さんの一般



質問を終わります。

【協和中学校議員 自席へ】

○副議長（金子航大） 次に南外中学校、15番、佐々木百恵さんと、16番、今野鈴音さんをお願いします。

○南外中学校（佐々木百恵） はい、議長、15番。

○南外中学校（今野鈴音） はい、議長、16番。

【南外中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（金子航大） それでは15番、佐々木さん、質問をお願いします。

○南外中学校（佐々木百恵） 南外中学校の佐々木百恵です。

観光文化スポーツ部と教育委員会に部活動の地域移行への不安について質問します。



スポーツ庁・文化庁の提言によると、来年度から3年かけ、段階的に休日の部活動が地域の活動団体に移行することになります。そこで、私たち南外中学校生徒会は、本校の生徒を対象にアンケートを実施し、移行に対して不安に思っていることなどを聞きました。その結果から、活動環境について大きく二つの質問があります。

まず一つ目は、活動場所への移動に伴うサポート体制についてです。私たちが住む南外中学校の学区には、中学生を受け入れてくれるスポーツクラブや文化活動団体等は、ほぼない状況です。あるのは主に生涯スポーツに関わる団体のみです。所属する団体の有無や、他校との合同部活動等により、活動場所が遠距離になったときの送迎や楽器・備品の運搬の負担などについて、保護者で対応できない場合、誰がどの程度サポートしてくれるのかです。

二つ目は、指導者についてです。一つ目の質問でも触れたとおり、現状、本地区では受け入れ団体がほとんどない状況です。このことから、休日の部活動の指導者の確保も困難になることが予想されます。その場合、小学校のスポーツ少年団に見られるような、保護者が指導者を務めるような体制が主となるのでしょうか。あるいはスポーツ庁や文化庁が示すような「人材バンク」のようなものが本市でも構築されるのでしょうか。

これらのことについて、市としての現状と今後の計画を教えてください。

○副議長（金子航大） 質問が終わりました。答弁を求めます。伊藤教育長さん。

【伊藤教育長 登壇】

○教育長（伊藤雅己） 南外中学校、佐々木百恵さん、今野鈴音さんの質問にお答えいたします。

国では、令和5年度から令和7年度までの3年間を、休日の部活動地域移行に向けた改革推進期間としています。こうした国の方針を受けまして、市では観光文化スポーツ部と教育委員会事務局が連携し、部活動の地域移行を推進するための準備を進めているところです。

はじめに、所属する団体の有無や活動場所が遠距離になった場合のサポート体制についてですが、まずは、現在、各学校にある部活動の受け入れ団体の有無について調査したいと思います。例えば、南外地域の場合であれば、野球部やソフトテニス部を、南外地区総合型スポーツクラブやスポーツ少年団などで受け入れることは可能かなどについて話し合うこととなります。南外地域のみで受け入れや活動が難しい場合には、より広い範囲で考える必要があります。現段階ではどの程度の活動範囲となるのか予測できないため、具体的にどのような支援が必要か明確にお答えすることはできませんが、方向性が明らかになった段階で、改めて必要なサポート体制について検討していきたいと思っています。



次に、指導者についてですが、国の示す資料の中に複数の例が示されています。指導者の人材バンクもその一つですし、スポーツ少年団の活動のように保護者や地域の人材が指導者となることも考えられます。また、休日は教員が地域の指導者として指導できるような体制整備も進められていると伺っております。中学生や保護者の皆さんはもとより、教員、地域の指導者にとってより良い方法を検討していきたいと思っております。

部活動の地域移行に当たり、質問していただいたほかにも多くの課題があると捉えています。市では、令和5年度は、市内スポーツ団体や文化団体、関係する方々とも連携し、地域移行のための本格的な組織を立ち上げることを計画しています。他の市町村の取り組みや中学校体育連盟をはじめとする関係団体の動向等を踏まえるとともに、様々な課題の解決を図りながら、生徒の皆さんにとって、より良い活動の場を準備できるように進めていきたいと思っております。

【伊藤教育長 降壇】

○副議長（金子航大） 再質問はありませんか。

○南外中学校（今野鈴音） はい、議長。

○副議長（金子航大） はい、16番、今野さん、再質問をお願いします。

○南外中学校（今野鈴音） 南外中学校の今野鈴音です。再質問をします。

最近、ニュースでも「働き方改革」という言葉を頻繁に耳にします。そういった視点や現代の少子高齢化という問題から、部活動を、まずは休日から、そしていずれは平日も地域移行していくという流れは避けられないものだと思います。しかし、部活動が私たち中学生に与えてくれるものは、単に技術面の向上だけではありません。練習を通して得られる心身の成長や達成感、そして何より、指導者も含めた仲間との信頼関係です。アンケートからは、平日と休日の指導者の違いから発生する指導体制の違いに不安を感じる声もありました。これまで学校の先生方と積み重ねてきた活動体制を、急激に変えることなく、できるだけ負担の少ない形で地域移行がなされるよう、これからも支援のほど、よろしくをお願いします。



○副議長（金子航大） 再質問に対する答弁をお願いします。伊藤教育長さん。

○教育長（伊藤雅己） 南外中学校、佐々木百恵さん、今野鈴音さんの再質問にお答えいたします。

部活動について文部科学省の学習指導要領では「スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するもの」と明記されています。

一方、国が部活動の地域移行で目指す姿は「少子化の中でも、将来にわたり、子どもたちがスポーツや文化芸術に親しむ機会を確保すること」「部活動の意義を継承・発展させ、新しい価値を創っていくこと」「地域の持続可能で多様なスポーツ環境、文化芸術に親しむ環境を整備し、子どもたちの多様な体験機会を確保すること」の3点です。

こうした考え方を踏まえ、各地域の施設の有効活用を図るとともに、スポーツ、文化芸術に関する多くのスキルを持った方々の協力を得ながら、これまでの部活動の良さを損なうことなく、皆さんが様々なスポーツや文化芸術を体験できる環境を整備することが大切だと考えています。皆さんの不安な気持ちに配慮するとともに、様々な課題の解決を図りながら、より良い地域移行ができるように努めていきたいと思っております。



○副議長（金子航大） これにて南外中学校、15番、佐々木百恵さんと、16番、今野鈴音さんの一般質問を終わります。

【南外中学校議員 自席へ】

○副議長（金子航大） 次に仙北中学校、17番、田村兼将さんと、18番、藤倉嘉輝さんをお願いし

ます。

○仙北中学校（田村兼将） はい、議長、17番。

○仙北中学校（藤倉嘉輝） はい、議長、18番。

【仙北中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（金子航大） それでは、17番、田村さん、質問をお願いします。

○仙北中学校（田村兼将） 仙北中学校の田村兼将です。

市民部にごみの減量化への取り組みについて質問します。

大仙市のごみ量基礎データによると、平成28年から令和3年までの市民1人当たりのごみ総出力は、ほぼ横ばいとなっております。既に市では、ごみ排出量削減に向けて、食品ロス削減の取り組みや資源ごみ拠点回収の取り組みを行っていますが、さらにごみの減量化を実現させるためには、市民一人一人が意識的にごみの減量に向けて行動していく必要があります。

これまで仙北中学校では、ごみの減量に向けて、生徒総会の議案書のペーパーレス化や食品ロスについて意識を高めるための弁当作り、ペットボトルを再利用した野菜栽培を行ってきました。これらの活動を通して、身近なことから、ごみを出さない仕組みを整えていくことの大切さを実感しました。

そこで、ごみ減量に向けて二つ提案します。

一つは、資源ごみの回収量を増やすために、資源回収拠点を増やすことです。現在、スーパーなどに置かれていますが、より気軽に出すことができるよう公民館などにも置いてはどうでしょうか。

二つ目は、プラスチックごみも資源回収し、再利用する仕組みをつくってはどうか。身の回りのごみには、プラスチック製品が多いことや「プラスチック資源循環促進法」が今年度4月から施行されたことでもありますので、プラスチックごみの削減が、ごみの総出力の減量につながると考えます。大仙市のゼロカーボンシティ宣言で掲げているプラスチック製廃棄物の削減にもつながると思います。

この提案について、現状の課題と今後の計画を教えてください。



○副議長（金子航大） 質問が終わりました。答弁をお願いします。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 仙北中学校、田村兼将さん、藤倉嘉輝さんの質問にお答え申し上げます。

はじめに、質問の資源ごみの回収拠点についてですが、現在、大仙市で資源ごみとして主に回収しているものは「びん・缶」「ペットボトル」「古紙」「小型家電」「食品トレイ」及び「乾電池・蛍光管」であります。

このうち、びん・缶、ペットボトル、古紙につきましては町内会等の集積所で回収しております。また、小型家電については市内8カ所、食品トレイについては市内37カ所、及び乾電池・蛍光管については16カ所の市が設置する市庁舎や地域の公民館、市内企業の敷地などの回収拠点で回収しております。

令和3年度に市が収集したごみの総量は2万9,991トンでありまして、うち資源ごみの総量が2,560トンとなっており、ごみ全体の量はここ数年横ばいであるのに対し、資源ごみの量は年々減少傾向にあります。資源ごみについては、ご指摘のとおり、市が設置する拠点以外にも大型店舗やスーパーが独自に拠点を設置して古紙、食品トレイ、ペットボトルなどを回収しており、買物のつい





でなどで出される方も多くみられます。

ごみの処理については、市民の皆さんがごみを出しやすいこと、正しい分類で出されること、収集業者が効率的に回収・処理できることがとても重要であります。市や民間の回収場所の設置に関わらず、市民の皆さんの分別マナーが資源リサイクルを進めることとなりますので、ごみの分別排出方法を記載している「ごみカレンダー」というものがありますが、このごみカレンダーにより、正しいごみの分け方・出し方を分かりやすくするとともに、回収拠点の見直しを行いながら、現在の拠点にしか出すことのできない資源ごみについても、集積所への排出が可能になるよう検討を進めていきたいというふうに思っております。

次に、プラスチックごみの資源回収と再利用につきましては、お二人の質問にもありましたとおり、昨年4月からプラスチック資源循環促進法が施行され、市町村はプラスチックを使用した廃棄物の分別収集と、収集した廃棄物の再商品化に努めることとされております。

先ほどお答えした内容にもありましたが、大仙市では現在、通常のごみ収集でのプラスチックごみの分別収集は行っておらず、食品トレイや発泡スチロールの拠点回収だけを行っております。新しい法律では、食品トレイや食品の入っていたプラスチック容器だけではなく、これまで処理できなかったその他のプラスチック使用製品も処理の対象となったことから、プラスチックごみの回収に当たっては、市民の皆さんにとって分かりやすい分別方法の周知や、新たな収集方法をどうするかが課題となっております。

現在、ゼロカーボンシティ実現にもつながるプラスチックごみの収集と再商品化に向けて検討しているところであります。プラスチックごみの回収を実施する際には、中学生の皆さんからもご理解とご協力をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。



#### 【老松市長 降壇】

- 副議長（金子航大） 再質問はありませんか。
- 仙北中学校（藤倉嘉輝） はい、議長。
- 副議長（金子航大） はい、18番、藤倉さん、再質問をお願いします。
- 仙北中学校（藤倉嘉輝） 仙北中学校の藤倉嘉輝です。再質問をします。



私たち中学生も、ごみの減量に向けて意識的に取り組んでいくことが大切です。そこで、環境問題への影響などを積極的に取り上げて発信していくことが有効だと考えます。プラスチックごみは川などへの流出から海へ流れ着き、海洋プラスチックとして生態系へ影響を及ぼしていることが喫緊の課題です。大仙市でもこれらに配慮し、運動場の建設では使用する人工芝を環境負荷の小さいものを選定していると伺いました。このようなことを積極的にサミット通信や学校・市のホームページで発信し、中学生や市民の関心を高めていくことはいかがでしょうか。

- 副議長（金子航大） 再質問に対する答弁をお願いします。老松市長さん。
- 市長（老松博行） 仙北中学校、田村兼将さん、藤倉嘉輝さんの再質問にお答えいたします。

まずは、情報発信につきまして、大変素晴らしいご提案をいただきました。ありがとうございます。市が毎年行っております市民による市政評価というのがありますけれども、その市政評価におきまして、廃棄物をはじめとする環境衛生に関する取り組み、これにつきましては、市民の皆さんの関心や重要度の高い分野となっております。

中学生の皆さんと協力しながら、市や中学校が行っているごみの減量化、並びに先ほどご指摘がありました環境の負荷を低減するための取り組み、こういったものを市の広報紙やホームページなどを利用して積極的に情報発信することで、環境問題に対する市民の皆さんの関心を、さらに高めていきたいというふうに思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

- 副議長（金子航大） これにて仙北中学校、17番、田村兼将さんと、18番、藤倉嘉輝さんの一般質問を終わります。

【仙北中学校議員 自席へ】

- 副議長（金子航大） ここで、議事の進行を田口愛彩さんと交代するため、暫時休憩いたします。  
午後1時33分 休 憩

午後1時33分 再 開

- 副議長（田口愛彩） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここからの議事を進行します、西仙北中学校の田口愛彩です。  
よろしくお願いいたします。

一般質問を続けます。

次に太田中学校、19番、草薨大翔さんと、20番、佐々木佑季音さんをお願いします。

- 太田中学校（草薨大翔） はい、議長、19番。

- 太田中学校（佐々木佑季音） はい、議長、20番

【太田中学校議員 対面式演壇に登壇】

- 副議長（田口愛彩） それでは、19番、草薨さん、質問をお願いします。

- 太田中学校（草薨大翔） 太田中学校の草薨大翔です。

建設部に花壇を中心とした市民の交流拡大の可能性について質問します。

大仙市太田地区では、地域花壇や太田中学校の花壇整備を通して地域の方々と交流しています。しかし、足を止めて花をじっくり観賞したり、花壇の周りで憩いの時間を過ごしたりできる場所は少ないように感じます。共に花を育てるだけではなく、共に観賞する場所があることで、市民の交流の場が増えるのではないのでしょうか。そのためには、ベンチや広場のある公園のようなスペースが必要だと思います。



しかし、第2次大仙市総合計画によると、人口1人当たりの公園面積は、令和元年度の数値が55平方メートルとなっており、基準値を上回っています。市公共施設等総合管理計画にもあるように、今後、人口の減少が見込まれる中で新たな公園を増やすことは難しいと思います。

そこで、今ある公園の敷地内に市民が管理する花壇を作ることで、市民が交流する場を作り出すことができるのではないのでしょうか。

ここで、東京都江東区の例を紹介します。地域住民が中心となって公園の花壇に花を植え、月に1回集まって花壇の手入れをしているそうです。参加者は、花を育てるだけではなく、地域住民同士の交流が増えたことに満足感を感じ、公園の利用者は、花壇が整備されたことで公園の雰囲気明るくなり、利用する機会が増えたそうです。同じような取り組みを大仙市でも行うことで、地域住民同士の交流が増えると思います。

手入れが行き届いた花壇が大仙市内に増えると、以前、太田地区で行われていた太田花壇フェアのようなイベントを、



範囲を拡大して開催できると考えます。今ある花壇で花壇アートをデザインしてフォトスポットとしたり、以前行われていたように花壇を巡るバスの運行をしたりすることで、市民の交流の機会が創出されるのではないのでしょうか。

これらの提案について、現状と今後の計画を教えてください。

○副議長（田口愛彩） 質問が終わりました。答弁を求めます。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 太田中学校、草薨大翔さん、佐々木佑季音さんの質問にお答えいたします。



質問の、花壇を中心とした市民の交流拡大の可能性についてということですが、はじめに、市が維持管理している大仙市内の公園に、市民が共同で整備する花壇を設け、花を觀賞する場を設けるというご提案でありますけれども、そのご提案につきましては、現在、大仙市には公園条例で規定している公園が104カ所ありますが、公園として使用を始めてから30年以上経過した公園がこのうち約5割となっておりまして、公園施設の老朽化の進行、それから維持管理経費の増大が心配される状況となっております。その中には既に花壇のある公園もあり、地域の皆さんにご協力をいただいたり、専門業者に作業をお願いしたりしながら花壇の整備を行っておる状況にあります。

市では今年度から、旧市町村の各地域にまずは1カ所ずつ、市内8カ所になるわけですが、その公園を地域の拠点となる公園というふうに定めまして、子育て支援にも役立つ、にぎわいのある公園の整備を計画的に進めております。今後、花壇の整備を計画している公園もありますので、地域の皆さんから整備についてご協力をいただける花壇についても増やしてまいりたいというふうを考えております。そして市民の皆さんの花を觀賞する機会も拡大していきたいというふう考えております。

次に、既にある花壇で花壇アートなどの取り組みを行うこと、そして、それらの公園で花壇フェアのような催しを行うことで、花壇を中心とした市民の交流拡大を図るというご提案でありましたけれども、そのご提案につきましては、住民同士の交流の場となり、地域コミュニティの活性化が図られるほか、市内外の方々との交流も盛んになるなどの効果も見込まれる、すばらしい提案であるというふうに思います。これには地域の皆さんのご協力が必要不可欠でありますので、花壇アートや花壇フェアなどの太田地域で実施されている事業をどのようにすれば大仙市全体に展開できるのか、取り組みの継続性も含めて今後研究するとともに、引き続き、公園の魅力向上を図るための事業を進めていきたいというふう考えております。

以上です。



【老松市長 降壇】

○副議長（田口愛彩） 再質問はありますか。

○太田中学校（佐々木佑季音） はい、議長。

○副議長（田口愛彩） はい、20番、佐々木さん、再質問をお願いします。

○太田中学校（佐々木佑季音） 太田中学校の佐々木佑季音です。再質問をします。





太田地区にある横沢公園は、水仙や桜、紫陽花、菖蒲などの季節の花が楽しめる公園です。園内には池があり、その周りを歩きながら豊かな自然を楽しむことができます。キャンプ施設や運動施設もあり、様々な目的で利用できる公園ですが、横沢公園をさらに多くの方に広く知ってもらい、太田地区以外の方々にも利用してもらいたいと思います。横沢公園や、この他の大仙市内の公園の利用者を増やすために、どのように情報を発信されているのでしょうか。また、私たち中学生にもできる情報発信の方法はありますか。

○副議長（田口愛彩） 再質問に対する答弁をお願いします。老松市長さん。

○市長（老松博行） 太田中学校、草薨大翔さん、佐々木佑季音さんの再質問にお答え申し上げます。

横沢公園につきましては、市の東部地区の中心となる基幹公園というふうに位置付けております。令和4年度から、そういった意味で整備を進めているところであります。横沢公園の魅力をアップさせるため、先ほどお話ありましたように水仙園や菖蒲沼、及び公園の散策路などの改修を行う予定であります。そしてさらには、季節ごとに楽しめる花壇を整備して、写真スポットを提供することなどを予定しているところであります。今後は、これまで以上に魅力のある公園になるというふうに思っておりますので、利用者の増加につながるようなPRをしっかりとやっていく必要があるというふうに思っております。

現在、市では、広報紙や情報誌などで公園の情報を発信しておりますけれども、横沢公園は、公園に隣接するクラブハウス利用者、またキャンパーなど、県内外から多くの利用者が訪れる公園でもありますので、そうした利用者の皆さんに向けて公園をPRしながら、そしてインスタグラムやフェイスブック等のSNSを活用したり、さらには公園の利用者からも広く情報発信したりしていただけるような、そんな取り組みをしていきたいというふうに思っております。

中学生の皆さんからは、学校のホームページを活用したり、学校行事や野外活動などで他の地域の方々や県外の方々と交流する際には、積極的に横沢公園や大仙市の公園の魅力をPRしたりしていただきたいというふうに思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

○副議長（田口愛彩） これにて太田中学校、19番、草薨大翔さんと、20番、佐々木佑季音さんの一般質問を終わります。

【太田中学校議員 自席へ】

○副議長（田口愛彩） 次に中仙中学校、11番、森川奈央さんと、12番、藤田悠亜さんをお願いします。

○中仙中学校（森川奈央） はい、議長、11番。

○中仙中学校（藤田悠亜） はい、議長、12番。

【中仙中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（田口愛彩） それでは、11番、森川さん、質問をお願いします。

○中仙中学校（森川奈央） 中仙中学校の森川奈央です。

農林部に健康促進や観光につながる「大仙市の花」コスモスの市内全域での栽培促進について質問します。

大仙市では、高齢化が年々進んでいます。大曲仙北広域市町村圏組合の統計によると、令和4年9月の高齢化率が39.9パーセントとなっており、今後はさらに増加すると予想されます。さらに大仙市の「第2次健康大仙21計画（中間見直し）」によると、健康寿命と平均寿命の差は縮まってきてはいるものの、さらに縮めていく必要があることが示されています。





そこで、私たち市民の健康促進につながる取り組みとして「大仙市の花」であるコスモスの市内全域での栽培促進と活用を提案します。

まず、栄養価が高い食用の花として栽培してはどうでしょうか。実はコスモスは食べられる花です。食べられる花の中では鉄分やカルシウムが豊富です。コスモスを使ったレシピを考案し、大仙市の広報に掲載することも考えられます。そのことで認知度が上がり、高齢者はもちろん、たくさんの人に食べてもらいながら健康寿命が延びればと思います。

また、コスモスの花びらを、石けんの染料に使うというのはどうでしょうか。優しく美しい色合いは石けんにぴったりで、地域の特産品として販売することができます。中学生から高齢者までを対象に石けんの手作り体験を実施することで、世代間交流をしながら手先の運動ができ、認知症予防にもつながります。

このように、コスモスは新しい可能性に満ちあふれています。大規模なコスモスの栽培ができる農地やハウスを市で造ったり、市と企業がコラボする事業をしたりしながら、市内全域でコスモスの栽培を促進していくのはどうでしょうか。

秋には色とりどりのコスモスいっぱいの美しい風景が市内の至る所で目にすることができ、観光名所となるところもあるかもしれません。まさに「大仙市の花」の名にふさわしいコスモスを生かした街づくりとなるのではないのでしょうか。

この提案について、市としての考えをぜひ聞かせてください。

○副議長（田口愛彩） 質問が終わりました。答弁を求めます。今野副市長さん。

【今野副市長 登壇】

○副市長（今野功成） 中仙中学校、森川奈央さん、藤田悠亜さんの質問にお答えいたします。

まず、はじめに、お二人が市の花コスモスに愛着を持っていただいていること、そして、その活用方法について考えていただいたことについて、大変うれしく思っております。ありがとうございます。

ご質問の健康促進や観光につながる大仙市の花コスモスの市内全域での栽培促進についてですが、本市の花であるコスモスは、その8枚の花びらから、八つの旧市町村が合併して誕生した本市を象徴しており、見た目と違い大変力強い花で、将来にわたって強いまちづくりを目指す大仙市にふさわしいものだと思っております。

市では、平成29年の大仙市中学生議会で、市の花であるコスモスを活用した緑化推進に関するご提案があったことを受けまして、大仙市緑化推進委員会で市の花コスモス普及促進事業を計画し、実施しております。コスモスを植栽したプランターを市の施設や学校等、公共施設に配布することを通じて、市の花であるコスモスを広く市民に周知し、景観の美化及び緑化を推進しており、皆さんの中仙中学校にも配布させていただいております。また、農地の維持等を目的とした多面的機能支払交付金の事業においても、景観形成活動の一つとして栽培が進められるなど、地域の景観作物として活用されていますが、今後は、市民が集う公園や学校の花壇等へのコスモスの植栽も検討していきたいと思っております。

これまで、コスモスの利活用については、主に観賞用としての側面から考えてきましたが、お二人からご提案いただきました健康を増進する食材としての活用方法など、新たな可能性があることが分かりました。市の花コスモスが、健康増進や観光振興につながるのであれば、大変素晴らしいことだと思います。

そのためにも、コスモスの食材や染料としての活用に当たっては、現在、取り組まれている事例などを参考に、まずは知るところから始め、利活用について研究していきたいと思っております。



【今野副市長 降壇】

○副議長（田口愛彩） 再質問はありませんか。

○中仙中学校（藤田悠亜） はい、議長。

○副議長（田口愛彩） はい、12番、藤田さん、再質問をお願いします。



○中仙中学校（藤田悠亜） 中仙中学校の藤田悠亜です。再質問をします。

大仙市の小・中学生にコスモスを使ったレシピを募集し、いいアイデアを市の広報に掲載して紹介するという方法を私たちは考えました。このアイデアについて、市としての考えやアドバイスをぜひお願いします。

○副議長（田口愛彩） 再質問に対する答弁をお願いします。今野副市長さん。

○副市長（今野功成） 中仙中学校、森川奈央さん、藤田悠亜さんの再質問にお答えいたします。

ご提案のコスモスを使ったレシピの募集等についてですが、日本における食材としてのコスモスの認知度は、まだ低い状況にあります。ただ、ビタミンCやビタミンE、それから抗酸化物質が豊富で、血液の浄化や骨の強化作用があるといわれております。諸外国でもマレーシアやジャワなどでは、サラダなどの食材として使用されております。

近年、日本でも濃いピンクの花びらを使用したソースやクラッシュゼリーなどの活用例もあり、本市の太田地域においては地域の魅力再発見事業によりまして、新たな活性化策として食べられる花、エディブルフラワーの一つ、ビオラを使った事業にチャレンジした経緯もあります。

このように、コスモスには食材としての可能性に加え、かわいらしい花は食卓に彩りを添えるなど、SNS等による情報発信の効果も期待されます。

市といたしましては、研究の一貫として、教育委員会と連携し、市内中学校を対象にアイデアの募集を進めていきたいと思っておりますので、その際には、各中学校の皆さんの積極的なご協力をお願いいたします。

○副議長（田口愛彩） これにて中仙中学校、11番、森川奈央さんと、12番、藤田悠亜さんの一般質問を終わります。

【中仙中学校議員 自席へ】

○副議長（田口愛彩） ここで、議長交代のため、暫時休憩いたします。

午後1時54分 休 憩

午後1時55分 再 開

○議長（藤田悠亜） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第5、決議案第4号「SDGsを意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議案を議題といたします。

本決議案は、議長を除き、全議員の提案であります。提案者を代表して、7番、平和中学校の菅原麻愛さんから提案理由の説明をお願いいたします。

○平和中学校（菅原麻愛） はい、議長、7番。



【平和中学校 菅原麻愛さん 登壇】

○平和中学校（菅原麻愛） 決議案第4号は、お手元に配付しております決議案を読み上げまして、提案理由の説明に代えさせていただきます。

私たち大仙市の中学生は「ふるさと大仙のよさ」を大切に守り続けるとともに、大仙市の未来をつくる主役として、地域の皆さんと力を合わせてSDGsを意識した行動をし、笑顔が広がるまちを創造していきます。

何とぞ、中学生議員の皆さんのご賛同をお願い申し上げます。

【平和中学校 菅原麻愛さん 降壇】

○議長（藤田悠亜） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

本件は、議長を除く全議員の提案でありますので、質疑と討論を行わず、直ちに採決したいと思います。これに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤田悠亜） ご異議なしと認めます。

よって、本件は質疑と討論を行わず、直ちに採決することに決しました。

これより、決議案第4号を採決いたします。

この採決は、起立をもって行います。

決議案第4号「SDGsを意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議案は、原案のとおり可決することに、賛成の皆さんのご起立をお願いいたします。



【起立 全員】

○議長（藤田悠亜） 起立全員です。よって、決議案第4号「SDGsを意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議案は、原案のとおり可決されました。

ご着席ください。

---

○議長（藤田悠亜） 以上で、本中学生議会の日程は、全て終了しました。

これにて、令和5年大仙市中学生議会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午後1時59分 閉 会

---

この会議録の内容に間違いがないことを確認し署名します。

令和 5 年 1 月 31 日

大仙市中学生議会議長 中仙中学校 森川奈央

議長 中仙中学校 藤田 悠亜

議員 大曲中学校 田口 楓恋

議員 大曲西中学校 深川 壮太

議員 大曲南中学校 伊藤 旬里



## <閉会式>

### ◆ 記念品の贈呈



【代表 南外中学校 今野鈴音さん】

### ◆ 伊藤 雅己 教育長あいさつ

中学生議員の皆さん、本当にお疲れさまでした。

今日のために原稿の作成、あるいは資料の作成、そして話し方やプレゼンの仕方の練習など、たくさんの時間と気持ちを割いて使って、万全の準備をして、この場を迎えてくれたのだらうと思います。

この本会議場という特別な場で、しかもこんなに多くの方々に囲まれた中での時間はどうでしたか。これは体験した方であれば分からない緊張感です。そして終わった後の成就感。もしかしたら、<sup>あんど</sup>安堵感かもしれません。そういったものが得られたのではないのでしょうか。

私も今日の皆さんの姿を見ていて、本当に圧倒されました。まず、ピーンと背筋が伸びて、しかも20人の40の目がこちらをずっと見ている。質問のときにも、一つ一つの言葉を丁寧に、しかも力強く語る。あるいは資料を示しながら熱く語る。そして何よりも、この緊張感の中で堂々と語る姿。中にはほとんど原稿を見ない方もいました。本当に頼もしいし、まぶしいと思って見っていました。

質問の中身について強く感じたことを三つ話します。

一つは中学生サミットについてです。「大仙市の未来は私たちがつくる」というテーマをずっと掲げているわけですが、やっぱりこのテーマが示すとおり、「ふるさと大仙」をより発展させたいという皆さんの熱い思いを感じることができました。

二つ目は、各学校がSDGsあるいは地域活性化の視点から、生徒会活動をより良いものにしようと思直しをし、そして実際に実践をし、それを地域全体に広げていこうと、様々な活動を積み重ねてきてくださったその経験が、質問の内容に厚みとか深みといったものになって表れていたなと感じました。

そして三つ目は、皆さんの質問は市の計画ですとか、あるいは現状をしっかりと把握しているということです。併せて、それらを踏まえて、自分たちがきちんと実践をして、その上での提案型の質問が多かったなということです。「もっと自分たちにできることはないのか」とか「地域の方々と一緒になって頑張っていきたい」というひたむきさが伝わる、そんな質問であったように思います。

今日の内容はこのあとの市の行政や、それから市民の皆さまへの確かなメッセージとなって、様々な動きにつながっていくものと確信しております。本当にありがとうございます。

さて、社会全体に目を移すと、法律の改正で選挙権が満18歳以上となりました。さらに、ここ数日テレビ



のニュース等で報道されていますが、成年年齢が満18歳へと引き下げとなりました。このことは、やはり少子高齢化をはじめとする国内の現代的な課題はもちろん、地球温暖化や、新型コロナウイルス、さらには国と国との様々なあつれきといった、地球規模での課題ともつながっています。

そうしたことが背景にある、この難しい時代を乗り越えるためには、皆さんの力が必要です。つまり、社会全体が若い世代の皆さんの力を必要としている、というふうに私は考えております。

今日、行政や議会的一端に触れたこの貴重な経験を忘れずに、これからも社会に主体的に関わり、この「ふるさと大仙」の大きな力となって活躍してくださることを期待しております。

本日はお疲れさまでした。そして本当にありがとうございました。

## ◆ 中学生議員代表（南外中学校 佐々木百恵さん） お礼のことば

3年に1回という中学生議会に、こうして参加できたことをうれしく思います。

本日は、老松市長様をはじめ、市議会議員の皆さま、そして大仙市役所の皆さま、私たちにこのような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

私はこの議会へ参加を知らされるまで、中学生議会という名前を知っていただけだったので、参加させていただいて初めて知ることがたくさんありました。

私たちの住んでいる大仙市をより良くするために、日頃より、このような話し合いが行われていることを、この議会を通じて実感することができました。そして、私たちもその一員として、将来につながることを一緒に考えることができたことを、本当にうれしく思います。

私たちの質問や提案に対して、真摯に答えてくださった教育委員会の皆さまをはじめ、各担当部署の方々に心より感謝申し上げます。また、この会を開催するために本当にたくさんの方が関わり、準備を進めてくださいました。この場を借りて、お礼申し上げます。

私はこの議会を通じて、社会をより良くするためには、私たちのような若者の高い興味・関心が必要であることを、あらためて感じました。また、大仙市ためにできることは何かを考え、支えていけたらと思いました。これからも生まれ育った故郷に、誇りを持って生きていきたいと思っております。

本日は本当にありがとうございました。



## <議員との懇談会>



冒頭で、青柳 友哉 議員が「議員の活動」について説明しました。



仙北中学校 田村 兼将 さん



青柳 友哉 議員



西仙北中学校 金子 航大 さん



後藤 健 議長



大曲西中学校 深川 壮太 さん



橋村 誠 議員





中仙中学校 森川 奈央 さん、藤田 悠亜 さん



秩父 博樹 議員



大曲南中学校 伊藤 旬里 さん



大曲中学校 田口 楓恋 さん



高橋 徳久 議員

